



につぼん丸の引退

熱海市長 齊藤 栄

につぼん丸は全長166メートル、総トン数2万2千トンのクルーズ船で、35年間の現役引退を前に、去る3月26日に最後の熱海寄港がありました。当日は船内のラウンジにおいて、船長に感謝状や記念品を贈るなどのセレモニーが行われました。

につぼん丸はこれまでに17回熱海に寄港していますが、2007年12月に初めて寄港した時のことを今でもはっきりと覚えています。当日は悪天候で海が荒れ、着岸が危ぶまれたのですが、その時間になると波がやみ、太陽も現れ、無事着岸ができました。につぼん丸の姿はとても大きく、熱海の街をバックに映える「真っ白な優美な姿」に本当に感動しました。当時、私の市長就任2年目に当たり、「財政危機宣言」と過去最低水準の宿泊客数という厳しい状況の中で、につぼん丸の初寄港は数少ない明るい話題でした。

私は大型の客船に対して旅情やロマンを感じます。につぼん丸は沖に停泊して、明かりを消して海上花火大会を観賞するのですが、花火大会終了とともに明かりを一斉に点灯するさまは洋上でシャンデリアが輝くようでした。そして港を去る際の「ボーツ」と鳴らされる汽笛は、につぼん丸が「ありがとう」と言っているように感じていました。

そのにつぼん丸がこの5月に横浜港帰着を最後に引退します。これまでのことを思い返すと本当に名残惜しく、につぼん丸に心から「ありがとう」と言いたいです。長い間本当にお疲れさまでした。